

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量の高位平準化を図り、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性・社会性の醸成

(1) 人権感覚豊かな心、社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成

ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。

※本校の遅刻数は平成 28 年度に延べ 515 であり、今後も組織的な対応により 500 台を維持する。

イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。

(2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。

ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度（平成 28 年度 56%）を平成 31 年度には 60%にする。

(3) グローバル人材の育成

ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を醸成する。

※海外の複数の高校との交流を推し進める。

2 確かな学力への取り組みと進路保障

(1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。

ア 学校設定科目「基礎教養」を設定し基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。

※外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度（平成 28 年度 77%）を平成 31 年度までに 80%以上に上げる。

※生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度（平成 28 年度 61%）を平成 31 年度には 65%にする。

※確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率（平成 28 年度 84%）、12 月末内定率（平成 28 年度 100%）、3 年後の離職率（平成 28 年度 17%[判明分]）を維持する。

(2) 生徒の自己実現への支援

ア 人権相談部を設置し、教育相談体制、要配慮生徒へのサポート体制の充実をはかる。

3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実

(1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。

ア 企業が求める資格の調査・精査と資格取得奨励。講習充実

※資格取得率及び取得に対する積極度向上を図る。検定試験の受験者数（平成 28 年度 1070 人）及び合格率（平成 28 年度 71%）を維持する。

(2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりへの関心とものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。

ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。

※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成 28 年度 14 回）を維持する。

(3) 地域産業連携重点型校として様々な活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざすと同時に、ものづくりを通して保護者との連携を強める。

ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。

※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城エッセ」をさらに推進する。

※地元企業の協力のもと、地元を中心とした中学生とその保護者に対して地域で学び地域で働くキャリアモデルを示し、地域に根ざした学校づくりをめざす。

イ 保護者—学校が一体となった学校づくりを行う。

※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校 P T A と連携した事業に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]

学校協議会からの意見

府立城東工科高等学校

<p>○安全・安心な学校への関連項目（肯定的回答） 「命の大切さや社会のルール」について学ぶ機会 生徒 72% 保護者 84% (H28年度 生徒 72% 保護者 72%) 「先生は自分（子ども）の悩みや相談事を聞いてくれますか」 生徒 84% 保護者 89% (H28年度 生徒 79% 保護者 56%) ⇒新設した人権相談部による相談室機能と人権HR等の充実により、昨年度よりポイントが高くなっている。入学時のアンケートでは高校生活に不安感を抱いている生徒が多数いるため、次年度も継続した取組みが必要と考える。</p> <p>○家庭との連携、情報提供の関連項目（肯定的回答） 「城工は教育情報について、提供の努力をしていますか」 保護者 73%(H28年度 保護者 60%) 「城工はご家庭と学校の連携がしっかり取れていると思いますか」 保護者 70%(H28年度 保護者 62%) ⇒学校の様子や生徒の状況等が十分に伝わるよう保護者との連携・情報共有の改善が昨年度の課題としてあがっていたので、今年度は担任団を中心に取り組んだ結果、保護者の理解が得られている。次年度も継続した取組みが必要と考える。</p>	<p>第1回（平成29年5月24日） ・学校経営計画について、事業計画と進行管理の重要性を指摘。場合によっては年度途中での目標変更等も検討が必要。 ・奨学金制度について、将来計画等も含め、改めて生徒に理解させることの必要性を指摘。</p> <p>第2回（平成29年10月11日） ・資格取得について、新たな取組みについて評価。また、取得者が減少している資格について、変更することも含め検討の必要性を指摘。 ・資格取得について、下位の資格を取得した生徒が上位の級をめざす取組みを期待。下位の級を取得できなかった生徒へのフォローアップの必要性を指摘。 ・教職員の超過勤務について、部活動顧問の複数配置等について指摘。</p> <p>第3回（平成30年2月7日） ・新制度(学校運営協議会)のもとでもこれまでの議論の成果を活かすため、委員構成等現在の体制を維持・継続することもよい。 ・社会問題になっている「校則」については社会性を身につける意味でも活用すべき。 ・図書館活用での読書の習慣づけ、海外修学旅行等によるグローバル感覚醸成などは高校生に不可欠。これからも力をいれてほしい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 豊かな人間性・社会性の醸成</p>	<p>(1) 人権感覚豊かな心の育成。社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成 ア・人間形成の一助として部活動にもさらに力点 ・人権ホームルームの充実 ・読書活動の推進 ・遅刻指導の徹底推進 ・挨拶の励行 イ・いじめの予防に重点</p> <p>(2) 美化・清掃活動を通し安定した情緒醸成 ア 全校的な美化・清掃活動</p> <p>(3) グローバル教育の充実により学校特色化推進 ア 海外高校との積極的交流</p>	<p>(1) ア・校長講話、生徒会集会、部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 ・3カ年を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・「図書部」を活用した、生徒への啓蒙活動活性化で生徒読書量の増加 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等連携による早朝登校指導推進 ・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施</p> <p>イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施</p> <p>(2) ア 保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動推進</p> <p>(3) ア 海外高校生受入れ実施</p>	<p>(1) ア・部活動加入率 65% (5月末現在)以上を維持(H28 65%) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育の充実」について問う項目を追加。肯定的回答 70%以上を維持(H28 71%) ・年間図書館来館者数、貸し出し冊数の増加 (H28 1450人、192冊) ・総遅刻数 600以下を維持 (H28 515) ・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 50% (H28 45%) イ・いじめの予兆察知件数 5件以上維持</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 65% (H28 56%)</p> <p>(3) ア 受入れ校数維持(H28 3校)</p>	<p>(1) ア・部活動加入率 (5月末現在) 65% (○) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育の充実」に関する項目。肯定的回答 72% (◎) ・図書館の来館者数 2,895人、貸し出し冊数 298冊 (◎) ・遅刻総数 691 (△) *特に3学期1学年数名の生徒に遅刻が集中。今後の検討課題 ・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 45% (○) *学校教育自己診断では、「入学してから改善するようになったこと」という聞き方のため、入学以前から「あいさつ」を意識している生徒の数も考慮し○とした。</p> <p>イ・いじめの予兆を察知し、聞き取りを実施した件数 34件 (◎)</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 53% (△)</p> <p>(3) ア 受入れ校数 4校 (◎)</p>
<p>2 確かな学力への取り組みと進路保障</p>	<p>(1) 様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善等への取組み ア・基礎学力の充実 ・教員の授業力向上 ・初任者教員の指導体制強化で教員全体の力量の高位平準化</p> <p>(2) 生徒の自己実現への支援 ア・教育相談体制の充実 ・配慮を要する生徒へのサポート体制の充実</p>	<p>(1) ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用 ・就職指導で各クラスへの担当教員配置による責任所在の明確化。加えて面接指導で進路部と学年の連携強化 ・学年HR係と進路部との連携強化により望ましい勤労観・職業観を身につけるHR活動を充実 ・教員相互の授業見学、研究協議を授業改善へ反映 ・初任者フォローアップミーティング実施(初任者、管理職、指導教諭、首席等で構成。課題に沿ったレポートをもとに討論等)</p> <p>(2) ア・教育相談を中心に扱う分掌を設置し、体制の充実を図る ・支援教育コーディネーターと保健部の連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る</p>	<p>(1) ア・外部テストの結果、1年→2年、2年→3年の経年変化によるD3ゾーンの減少 ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 80% (H28 77%) ・就職一次内定率 80%以上を維持(H28 84%) 9月末での就職率 90%以上 ・英検講習参加・受験者 5人以上を維持 (H28 参加・受験 5人) ・教員全員が1回以上授業見学を実施 ・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」肯定的回答 70% (H28 61%) ・初任者ミーティング年5回。初任者提出レポート内容。授業アンケート結果等</p> <p>(2) ア・相談室の開室時間の拡大 ・配慮を要する生徒及び保護者への面談を確実に実施。</p>	<p>(1) ア・外部テストの結果経年変化 H28 2年(76)→H29 3年(97) H28 1年(140)→H29 2年(92) (△) ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 74% (△) ・就職一次内定率 85% (◎) *9月末の就職率は就職試験日の日程から一次内定率と同内容となる。次年度から評価指標の変更が必要 ・英検講習参加者 5人。受験者数 4人 (○) ・教員の授業見学 約60% (△) *アンケートの提出を悉皆としなかったため、正確な人数を把握できなかった。人数把握の改善が必要 ・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」肯定的回答 59% (△) ・初任者ミーティング年5回 *2月に5回目と総括発表会を実施予定 (○)</p> <p>(2) ア・相談室の開室時間の拡大 週6回(昼3回、放課後3回)(昨年度週2回) (◎) ・支援教育コーディネーター同席での配慮を要する生徒及び保護者への面談回数 10回 (◎)</p>

府立城東工科高等学校

<p>3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実</p>	<p>(1) ものづくり実践的技術力向上 ア 資格取得推奨と講習充実</p> <p>(2) ものづくりへのモチベーション向上と日本のものづくりを担うことへの誇り・自覚・責任感の醸成 ア・キャリア教育の一環としての海外研修 ・成果発表、出展等の機会を充実</p> <p>(3) ものづくりを通じた地域貢献・連携等で地域に根ざした学校づくり推進 ア 地元企業との連携等で学校情報発信強化 イ 保護者のものづくり教育への理解促進等で保護者・学校連携を強化</p>	<p>(1) ア 企業の求める資格の調査・精査と生徒への取得推奨。講習充実</p> <p>(2) ア・台湾修学旅行実施。H29年度1年生も海外修学旅行を継続。 ・本校施設・設備、生徒による校内企業「城工房」等学校のインフラ活用</p> <p>(3) ア・企画委員会等で、城工メッセ、生徒会それぞれの担当教員、地元自治会代表等との連携強化による「城工メッセ」活性化。「城工房」その他で製作活動（焼芋器等） ・地元企業と連携した学校説明会を実施</p> <p>イ 保護者のものづくり教育への理解深化のため生徒の製作物（焼芋器等）をPTA行事等で活用。保護者対象実習体験の引き続き実施。</p>	<p>(1) ア 資格試験受験者数 1220人以上（H28 1070人）。合格率 73%（H28 72%）</p> <p>(2) ア・台湾修学旅行で「日系企業訪問」「現地工業高校との交流」「世界一の日本の技術の体感」実現。海外修学旅行の継続。 ・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数 15回以上（H28 14回+月2回）</p> <p>(3) ア・「城工メッセ」来場者数 300人目標（H28 278人）。 ・地元企業と連携した学校説明会を実施</p> <p>イ PTAと連携した事業の実施状況。</p>	<p>(1) ア 資格試験受験者数 1134人、合格率 68%（○） *資格試験にチャレンジする生徒数が昨年度より数値的に上回っている点を考慮し○とした。</p> <p>(2) ア・台湾修学旅行継続決定（○） *今年度は1月末に実施。次年度は12月に実施予定。 ・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数 26回（◎）</p> <p>(3) ア・「城工メッセ」来場者数 248人（△） *今年度は企業説明会のコーナーを設置。生徒のキャリア教育に寄与。出展企業増加。 ・地元企業と連携した学校説明会を中小企業家同友会、大阪府商工労働部、大阪商工会議所と連携して企画調整中（○）</p> <p>イ 文化祭、体育祭等、PTAと連携した事業を実施。保護者ものづくり教室参加者 31人。（○）</p>
---------------------------------------	--	--	---	--